《事業所名：優朋》

No.	特に良いと思う点	
1	タイトル	法人のバックアップ体制のもと、関係部署の職員が連携しながら利用者の地域生活を一体的に支援している
	内容	当ホームは前身施設の開設から半世紀近い歴史を有する社会福祉法人が運営しており、入居者の大半はホームの法人内の通所施設を利用している。日中と夜間の生活をそれぞれ担当する職員同士が緊密に情報を共有しながら利用者の支援にあたっている。また、法人が運営する移動支援・居宅介護・日中一時支援の機能を総合的に備えた生活支援センターが入居者の休日の余暇活動等をサポートしている。法人のバックアップ体制のもと、関係部署の職員が連携しながら利用者の地域生活を一体的に支援している。
2	タイトル	利用者の意向を踏まえた個別支援計画の目標と支援の方針、方法等について職員間で情報を共有し、統一性のある支援に努めている
	内容	個別支援計画の作成において、利用者の自立度と社会性の向上を目的として、本人がチャレンジしてみたいことなどを引き出しながら、一人一人のニーズと目標の設定に努めている。今回確認された事例の一つに、利用者の希望により、洗濯機を使って衣類の洗濯を自分でできることを目標として、職員の見守りのもとで練習を重ね、概ねできるようになったケースがあった。毎月の職員会議で利用者の状況の変化等を確認し、非常勤を含む全職員に対して支援方針の周知を図っており、実際の事例からも個別支援の目標や方法が職員間で共有されている様子が伺える。
3	タイトル	利用者の高齢化にともない、外部の専門機関を活用して、利用者の健康の維持・管理に努めている。
	内容	利用者の高齢化にともない、訪問看護事業所の看護師が毎月各ユニットを訪問して、利用者の健康状態を把握している。体調に不安を抱える利用者が安心して相談できる相手ともなっており、精神的なケアの役割も担っている。また、ホームが指定する調剤薬局と個別に契約を結び、薬剤師訪問サービスを利用してもらっている。薬の一包化等による誤薬リスクの軽減に加え、薬剤師が利用者の嚥下状態に合わせて医師に薬の形状変更を提案するなど利用者側のメリットにもつながっている。外部の専門機関を活用して、利用者の健康の維持・管理に取り組んでいる。

No.	さらなる改善が望まれる点	
1	タイトル	利用者の状態とその変化を把握し、支援課題を抽出するためアセスメントの様式の見直しと、情報の継続的な更新に向けた検討が期待される
	内容	利用開始時に、家族に対し利用者の支援に必要な情報について所定の様式（アセスメントシート）への記入を依頼している。シートには利用者の医療面や日常生活動作、社会生活、コミュニケーション特性等の他、緊急連絡先等の項目も含まれ、台帳の機能も持たせている。本来、アセスメントは利用者の状態とその変化を把握したうえで、適宜、支援課題を抽出するための手続きであり、ホームも書式の見直しを行う必要を認識している。今後、アセスメントの様式の改定を図ったうえで、利用者の状態変化に応じた継続的な更新を行うことが期待される。
2	タイトル	業務全体の構造の見直しを視野に可能なところからICTの導入を図り、業務の効率化につなげるための検討を進めることが期待される
	内容	当ホームと生活支援センターを統括する施設長のもとで、職員は法人の理念・方針を共有し、使命感を持って業務にあたっている様子が今回の自己評価の結果からも読み取れる。利用者に対する個別の支援方針等に関しても非常勤を含む全職員に周知が図られていることが確認できた。現在、ホームでは人材の確保・育成を課題の一つにあげ、採用活動や職員研修に力を注いでいる。福祉業界の深刻な採用難が続く中、今後は業務全体の構造の見直しを視野に可能なところからICTの導入を図り、業務の効率化につなげるための検討を進めることが期待される。
3	タイトル	家族関係の調整にあたり、必要に応じて専門的な相談援助の技術を活用しながら、本人の意向を踏まえた調整を進めていくことが期待される
	内容	家族の高齢化が進む中、これまで家族が担ってきた利用者の金銭管理や定期通院の付き添い等を全面的に職員に託したいという要望が増しており、ホームでは家族の気持ちに応えつつも、外部サービスの適切な利用について家族に案内している。また、ホームの生活を通じて利用者が自立度を高めていく中で、本人と家族の思いが一致しない場面も増えてきており、職員はその調整に難しさを感じている。繊細な家族関係の調整にあたり、必要に応じて専門的な相談援助の技術を活用しながら、本人の意向を踏まえた調整を進めていくことが期待される。